

No.24

## 心臓血管外科で扱う疾患について



豊見城中央病院 心臓血管外科  
寺田 真也 医師      部長 山内 昭彦 医師

豊見城中央病院 心臓血管外科 部長  
山内 昭彦 医師

### <開設5年目にあたり>

あけましておめでとうございます、本年もよろしくお願い致します。当科は開設以来4年が経過しました。多くの方々からのご支援をうけてこの4年間、患者さんの治療にあたることができたことを感謝しております。今後ともよろしくお願い致します。

### <優しくあるためには強さが必要である>

上記した言葉は私が常に意識していることであり、医療を行う上で非常に大切なことのひとつと感じております。私の解釈は「患者さんに優しくすることは、患者さんを困らせている病気を完治させることであり、それには強さ、つまり病気を治すだけの医療者としての力が必要」ということであります。弱きものを守るには優しさだけではだめであり、逆境や困難な場面を打開できる強さがないといけなと感じております。まさに我々外科医にこれは当てはまることであり、執刀医をはじめとしたそれに関与する医療従事者全体の強さが一人の患者さんを治すためには必要です。

この考えから我々は常に自分達を客観的に評価し、治療を行ううえでの「強さ」を身に付けるべく精進して参りました。当科は2011年4月に開設しましたが多くの皆様のご理解・ご協力をいただき4年が経過しました。今回は当科の現況につきましてお話しさせていただきます。

### <開設以後4年間の治療内容>

開設以後現時点で307名の患者さんに対する開心術を施行して参りました。2014年は当初の目標であった年間開心術100例を超えることができました。日本全国的にみて年間開心術100例を行っている施設は認められる数字であります。ただ、私どもは更なる精進を重ねてさらに多くの患者さんに対する治療を行うことを次なる目標としております。対象疾患は当初、虚血性心疾患が多かったですが現在は高齢者大動脈弁狭窄症を中心とした心臓弁膜症が上となっております。



ご紹介いただいた先生方が望まれる治療結果をだしたかどうかということ完全手術と定義しましたがこれは96.5%でありました。また術後院内死亡は2.2%でありましたが待機手術症例に関しては0.6%といった内容であります。これらの数字は全国の一流施設と同様の内容であります。2014年の術後平均在院日数は18日でありました。



### 合併症発症率

術後心不全	0.5%
術後脳梗塞	2.0%
重症感染症	3.0%
術後透析導入	0

- ### 当院における心臓血管外科手術治療の特徴
1. 質の高い医療を提供します
    - \* 低侵襲心拍動下冠動脈バイパス術を100%  
完遂し吻合血管の開存率は96.3%
    - \* 僧帽弁形成術の成功率100%
  2. 高い手術成功率、低い死亡率
    - \* 成功率96.5%、死亡率2.2% (待機手術時0.6%)
  3. 短い入院期間
    - \* 術後平均入院期間18日

上記内容は全体像であります我々は、虚血性心疾患に対する心拍動下冠動脈バイパス術、高齢者に弁膜症に対する安全な治療(2014年は80歳以上の開心術を20名の方に行いましたが死亡は緊急手術患者さん1名:5%でありました)、僧帽弁形成術の高い完遂率、大動脈瘤に対するステントグラフトを用いた低侵襲治療、等を主として日々診療に従事しております。目標は常に全国トップレベルの心臓外科治療でありこれらをここ沖縄で患者さん方に提供できるように個々の人間が努力し、その集団となるべく客観的な検討を繰り返しております。

豊見城中央病院心臓血管外科はこれからも一人ひとりの患者さん、そしてその患者さんをご紹介いただく先生方からの期待に応えることができるように精進して参ります。今後ともよろしくお願い致します。また、この4年間の皆様方からのご支援・ご指導、あらためて感謝申し上げます、ありがとうございました。